Friday

1 WEEK MASTER **5th DAY !!!**

今日マスターすること
TODAY'S GOAL !!!

バックカバーを作る

STEP 1 ••（CDジャケットの仕上げ

STEP 2 ••（バックインレイを作る

STEP 3 ••（文字を編集する

STEP 4 ••（バックインレイを仕上げる

CDジャケットの仕上げ

このステップの流れ

今日は、「木曜日」から作成しているCDジャケットを仕上げてゆきます。すでに基本的な写真合成は済ませているので、細かい部分の味付けや、CDタイトルの作成を行います。

このステップでは以下のことを練習します。

(1) ラインを引く

新しいレイヤーを作成し、背景と人物との境界にブルーのラインを引きます。

(2) タイポグラフィ

文字をビジュアルとして使ってみましょう。

(3) タイトルを入力

CDのタイトルを入力して完成させます。

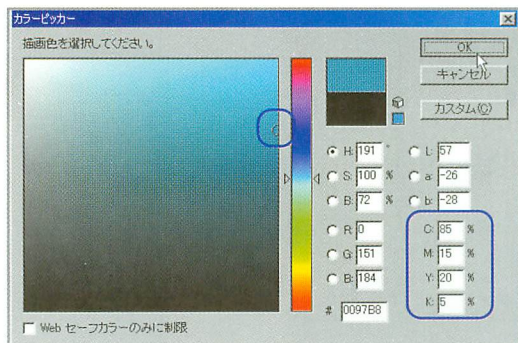
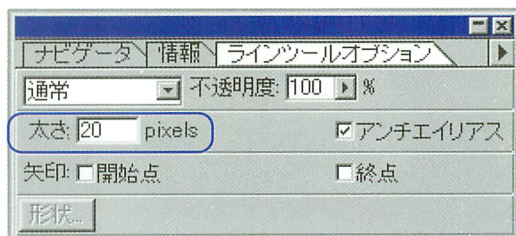
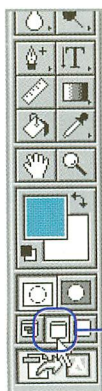
ラインを引く

人物と背景画像との境目にラインを引いて、ぐっと引き締まったデザインにしましょう。「木曜日」の最後に保存したデータを開いておいてください。

1 [レイヤー] パレットの [新規レイヤー] ボタンをクリックして、新しいレイヤーを作ります。

2 [両手] レイヤーの上に、新しく [レイヤー1] が作成されました。

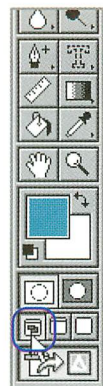
3 ツールボックスから [ライン] ツールを選びます。

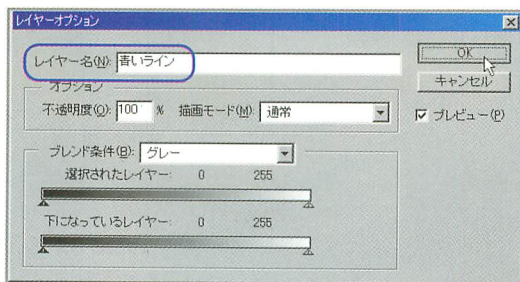
4 ツールボックスの [描画色] をクリックします。

5 [カラーピッカー] ダイアログボックスが出てきます。[C：85%]、[M：15%]、[Y：20%]、[K：5%] に設定します。

6 [ラインツールオプション] パレットで、[太さ] を [20] ピクセルに設定します。

7 ツールボックスの [メニュー付きフルスクリーンモード] で画面表示を切り替えます。

8 ウインドウがなくなり、作業しやすくなります。人物の右側にラインを引きます。画像よりも少し上からドラッグし始めると描きやすいでしょう。

9 垂直な線を引きたいので、Shiftキーを押しておきます。画像の下まで一息でドラッグしてください。ラインは画像からはみ出すことはありません。

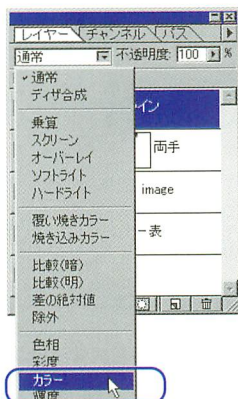
10 人物の左側にも同様の手順でラインを引きます（ここでは下から描いていますが、もちろん上から下にドラッグしてもかまいません）。

11 2本のラインが引けました。ちょっとラインがはっきりしすぎているので調整しましょう。その前に、このレイヤーの名前を変えておきます。

12 ツールボックスの［標準画面表示］ボタンをクリックして、元の表示状態に戻します。

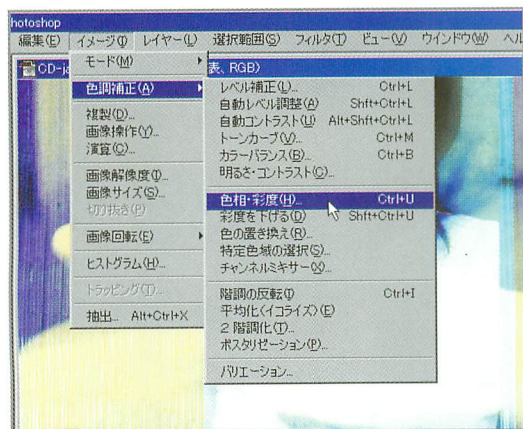
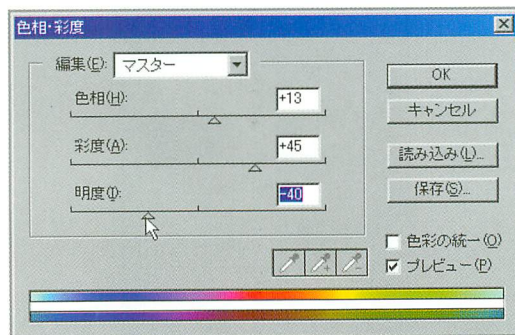
13 ［レイヤー］パレットの［レイヤー1］をダブルクリックします。

14 ［レイヤーオプション］ダイアログボックスが表示されます。［レイヤー名］に［青いライン］と入力して、［OK］ボタンをクリックします。

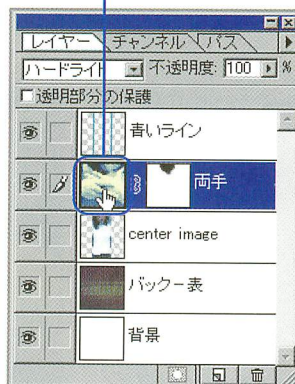
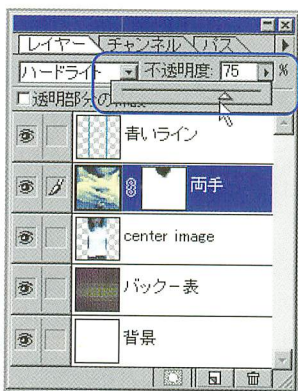
15 ［レイヤー］パレットで確認すると、レイヤーの名前が変わっています。

レイヤーの描画モードを調整する

次に、それぞれのレイヤーの描画モードやカラーを調節してみましょう。レイヤーを行ったり来たりしますので、目的のレイヤーを選択しておくことを忘れないように作業を進めてください。

1 ［レイヤー］パレットの［描画モード］を［カラー］に切り替えます。

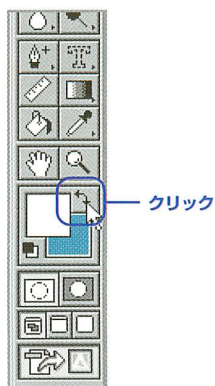
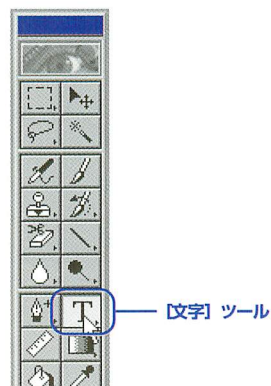
2 ［カラー］モードは、下に重なった写真で色のついているところに反応して、ラインの色に強弱が付きます。

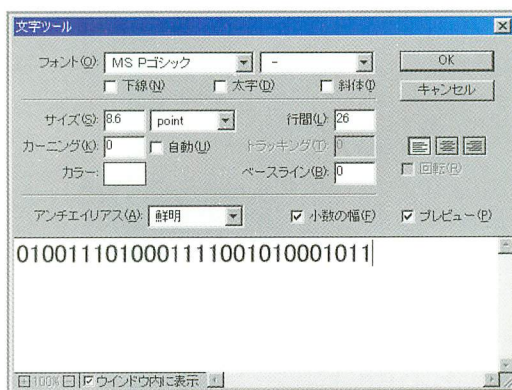
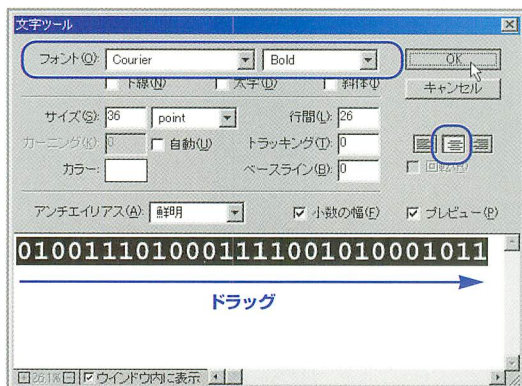
3 ［レイヤー］パレットの［バックー表］レイヤーをクリックして選択します。

4 ［イメージ］メニュー→［色調補正］→［色相・彩度］（Ctrlキー＋U）を選択します。

5 ［色相・彩度］ダイアログボックスで［色相：＋13］、［彩度：＋45］、［明度：−40］と設定し、［OK］ボタンをクリックしてください。

6 彩度を上げたので、バックがはっきりした色になりますが、明度を下げていますので、それほど派手な色ではないはずです。

7 ［レイヤー］パレットの［両手］レイヤー（レイヤーマスクではなく、左側の写真の方）をクリックします。

8 ［不透明度］のスライダをドラッグし、数値を［75］％程度にします。

9 「両手」の写真が薄くなって、背景の色がよりはっきり見えてきました。

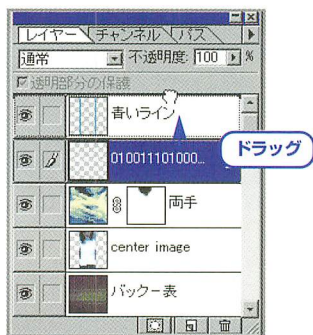
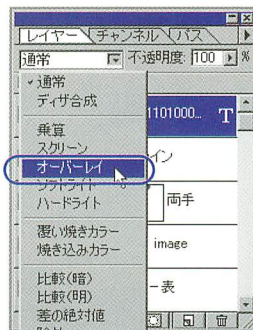
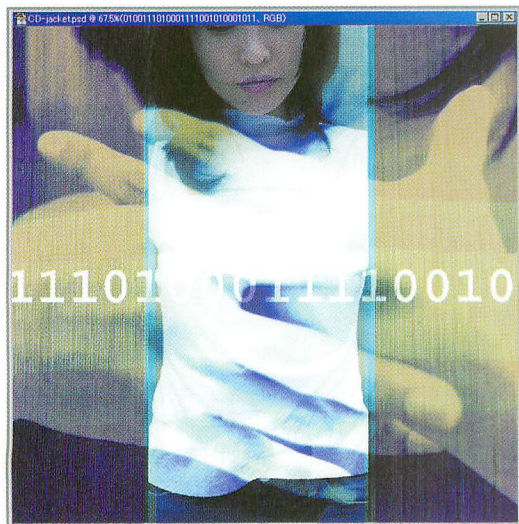
タイポグラフィ

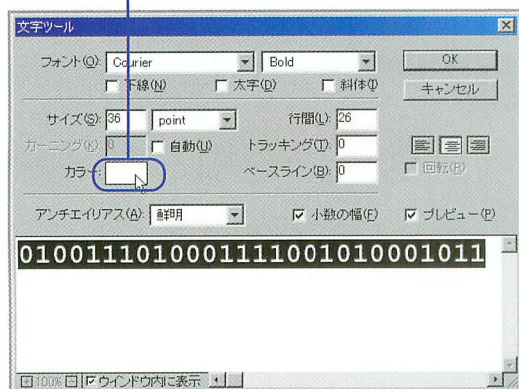
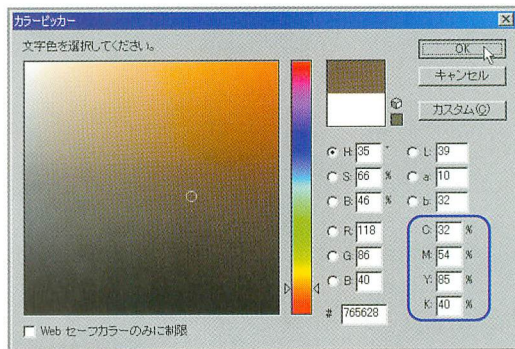
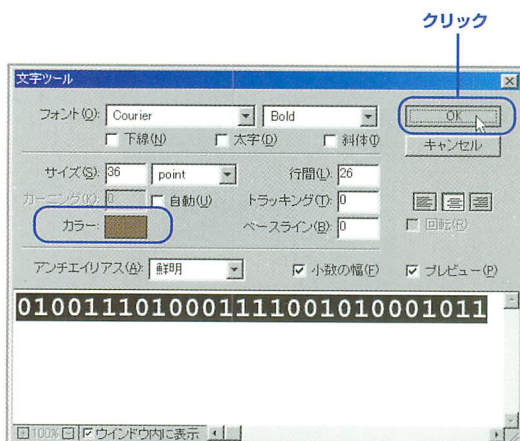
デジタル的なイメージにするための味付けとして、画面の中央に、0と1がランダムに並ぶ数字を入力します。

1 [描画色] を白にします。ここでは、ツールボックスの [描画色と背景色を入れ替え] ボタンをクリックすると、[描画色] を白にできるはずです。

2 ツールボックスから [文字] ツールを選択します。

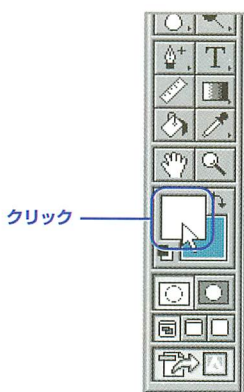
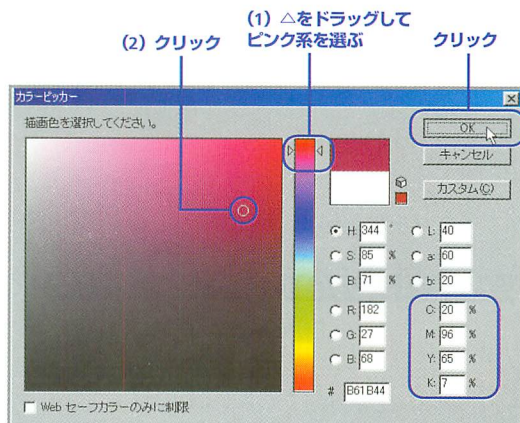
3 画像の中央あたりでクリックします。

4 [文字ツール] ダイアログボックスが出てきます。「0100111010001111 0010…」と適当に入力します。

5 入力した文字列をドラッグして選択し、[フォント]は[Courier][Bold]、[サイズ]は[36]ポイント、[行揃え]を[中央揃え]に設定します。

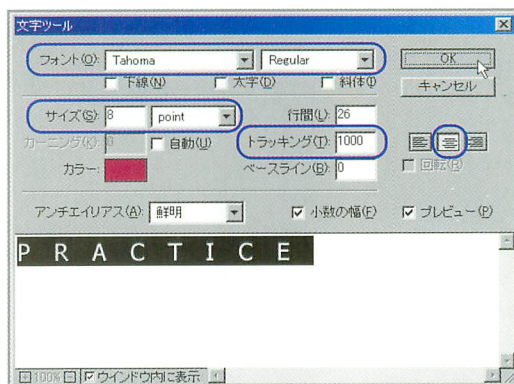
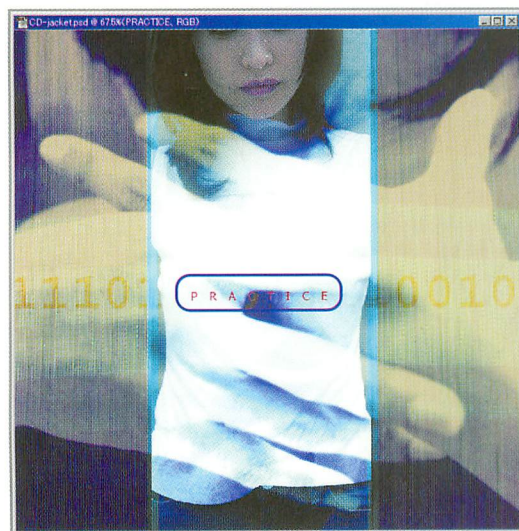
6 入力したテキストが、画面の中央に配置されました。

文字に表情をつける

いったん入力した文字は描画モードや色を変えて、もっと凝ったタイポグラフィに編集できます。ここでは、文字の色を後から変える方法を覚えてください。

1 選択されていたレイヤーの上に文字レイヤーができ、入力した文字がレイヤー名になっています。文字レイヤーを[青いライン]レイヤーの上にドラッグして移動します。

2 文字レイヤーが選択されていることを確認して、[レイヤー]パレットの[描画モード]を[オーバーレイ]に切り替えます。

3 画像と文字がなじみました。さらになじませるために、文字の色を変更してみましょう。

4 [レイヤー] パレットで文字レイヤーをダブルクリックします。

5 [文字ツール] ダイアログボックスの [カラー] の部分をクリックします。

6 [カラーピッカー] ダイアログボックスで [C：32%]、[M：54%]、[Y：85%]、[K：40%] のカーキ色に設定します。

7 [文字ツール] ダイアログボックスの [カラー] が、[カラーピッカー] で指定した色に変わります。[OK] ボタンをクリックしてください。

8 文字の色が変わります。背景の色と似た色にしたので、模様のように自然にとけ込んでいます。

9 次に、CDタイトルを入力します。ツールボックスの[描画色] をクリックします。

10 カラーピッカーが表示されます。中央のスライダを動かしてピンク系を選び、左のボックスからボルドー色を選びます。ここで選んだ色は正確には、[C：**20%**]、[M：**96%**]、[Y：**65%**]、[K：**7%**] です。数値入力で指定してもかまいません。

11 ツールボックスから［文字］ツールを選びます。画面の真ん中あたりでクリックします。

12 ［文字ツール］ダイアログボックスで、［フォント］を［Tahoma］の［Regular］、［サイズ］を［8］ポイント、［行揃え］を［中央揃え］、［トラッキング］を［1000］に設定して、「PRACTICE」と入力します。

13 クリックした位置を中心として、設定したとおりに［PRACTICE］という文字が入力されました。

14 ［レイヤー］パレットで確認すると［PRACTICE］の文字レイヤーができています。

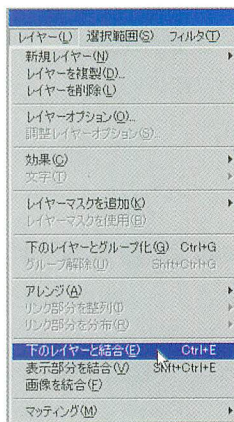
15 ツールボックスから［移動］ツールを選択します。

16 ［移動］ツールで［PRACTICE］という文字をドラッグして、Tシャツの胸あたりに移動します。

17 これでほぼ完成です。あとは、レイヤーを整理していきます。

不要なレイヤーを削除

ここでCDジャケットの背景として使ったのは［バック一表］レイヤーですが、最初に白い紙を用意してから始めましたので、実際は使わない［背景］レイヤーが残っています。不要なレイヤーはデータサイズを増やすだけなので削除しましょう。

1 最後にデータを整理しておきましょう。［レイヤー］パレットの［バック一表］レイヤーを選択します。

ここがポイント!!

［下のレイヤーと結合］を実行すると、レイヤーの名前は、下のレイヤー名が適用されます。

2 ［レイヤー］メニュー→［下のレイヤーと結合］を選択します。

3 ［レイヤー］パレットから［バック一表］レイヤーがなくなり、［背景］レイヤーと統合されました。

4 これでCDジャケットができあがりました。［ファイル］メニュー→［保存］を選んで、上書き保存しておきます。続けて裏面を作りますので、ウインドウは閉じずに次へ進んでください。

バックインレイを作る

CDジャケットからバックインレイを作る

☞バックインレイ

CDケースの裏側に入れるもの。バックカバーと言ったりもします

今度は、CDジャケットに手を加えて、バックインレイを作ります。CDと同じ手の写真をメインイメージとして使い、曲名を追加したり、全体の色を変えたりします。

このステップの流れ

ここでは以下のことを練習します。

(1) 不要なレイヤーを削除する

バックインレイに使わないレイヤーを削除しておきます。

(2) CDジャケットの幅を広げる

用紙の幅を、背の部分も含めて13.8cmに広げます。

(3) 画像の幅を広げる

写真を用紙の幅に合わせます。

◀バックインレイの完成図。

不要なレイヤーを削除する

青いラインと人物の写真の2つのレイヤーを削除します。

1 まず、［レイヤー］パレットで［青いライン］レイヤーを削除しましょう。

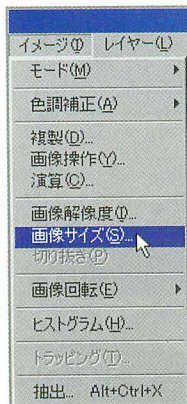
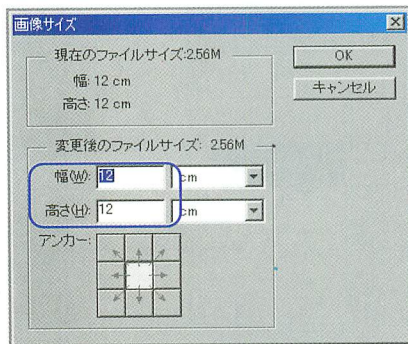
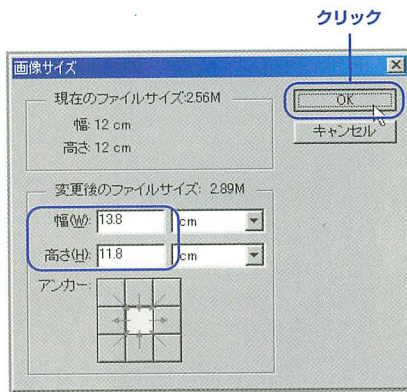
2 ［レイヤー］パレットの［ゴミ箱］アイコンにドラッグします。

3 同様に、［center image］レイヤーも［ゴミ箱］アイコンに重ねて削除します。

4 ［レイヤー］パレットから［青いライン］レイヤーと［center image］レイヤーが削除されました。

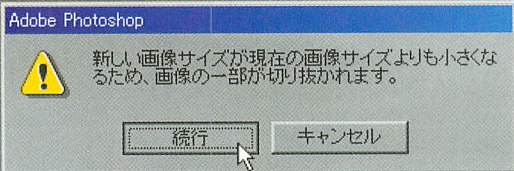
5 アーティストの写真と縦の青いラインがなくなった状態です。

CDジャケットの幅を広げる

CDジャケットの表面は12cm×12cmでいいのですが、裏面は13.8cm×11.8cmと、幅、高さともに異なります。画像のサイズを変更する練習をしましょう。

1 ［イメージ］メニュー→［画像サイズ］を選択します。

2 ［画像サイズ］ダイアログボックスが出てきます。現在は［幅］［高さ］ともに12cmになっています。

3 ［幅］に［13.8］cm、［高さ］に［11.8］cmと入力し直して、［OK］ボタンをクリックします。

ヒント!!

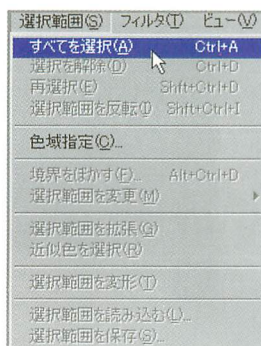
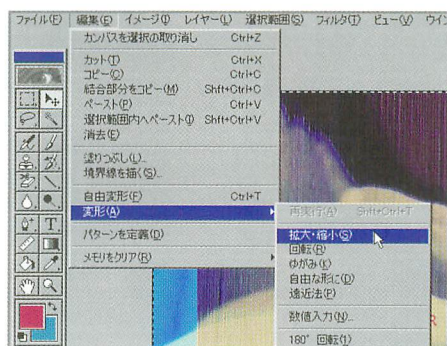
背景色に注意！

［画像サイズ］コマンドを使って画像のサイズを広げるときは、背景色に注意してください。たとえば、背景色が黒になっていると、広がった部分の地の色が黒になるからです。通常は、背景色を白にしておくとわかりやすいでしょう。

4 新しい画像サイズは高さを短く設定したので、「画像がカットされてしまうよ」というアラートが出てきますが、このままで大丈夫ですから、［続行］ボタンをクリックします。

5 幅が13.8cm、高さが11.8cmになりました。幅は前よりも大きくなって、今まで見えていなかったところまで手の写真が見えています。でも背景画像は幅が足りないので、これから幅を広げます。

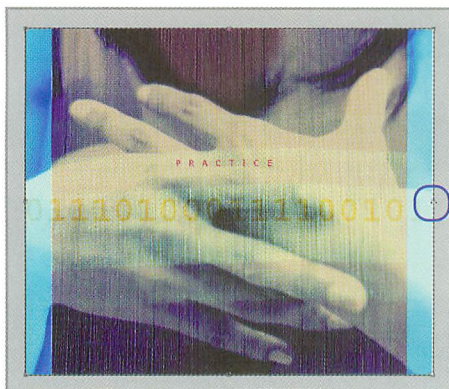
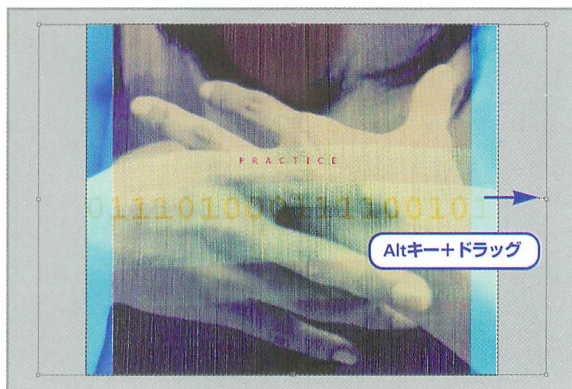
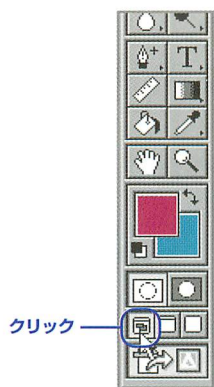
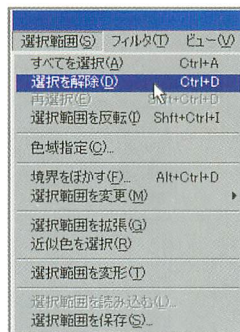
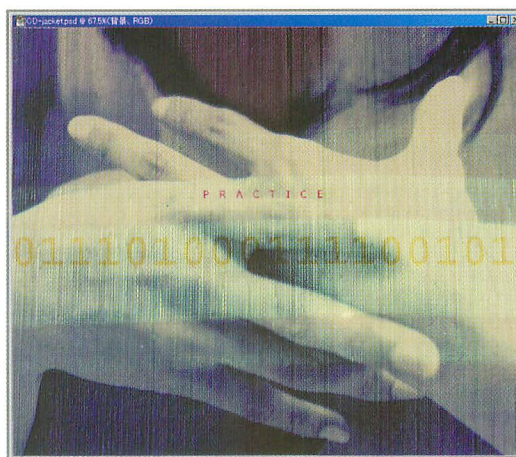
画像の幅を広げる

画像の幅を13.8cmに広げたので、左右の画像が足りなくなってしまいました。画像を横幅いっぱいに広げてみましょう。

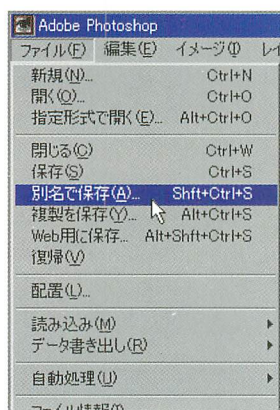
1 ツールボックスで[メニュー付きフルスクリーンモード]に切り替えます。

2 [レイヤー]パレットの[背景]レイヤーが選ばれている状態で、[選択範囲]メニュー→[すべてを選択](Ctrlキー＋A)を選びます。

3 [編集]メニュー→[変形]→[拡大・縮小]を選択します。

ここがポイント!!

中心から広げるときにはAltキー

ここでは画像の中心を基準に横に広げたいので、Altキーを押しながらドラッグしています。横幅だけを広げるときには左右のハンドルを、高さだけを広げるときは上下のハンドルをドラッグします。

4 右側のハンドルをつかんで、Altキーを押しながら右へドラッグして拡大します。

5 広げた幅にぴったり合うように、ドラッグしてください。[メニュー付きフルスクリーンモード]にしているので、画像の外までドラッグするのが楽です。

6 ツールボックスで［標準画面表示］をクリックし、元の画面表示状態に戻します。

7 ［選択範囲］メニュー→［選択を解除］を選択します。

8 これがジャケットの裏側の基本画像になります。

別名で保存する

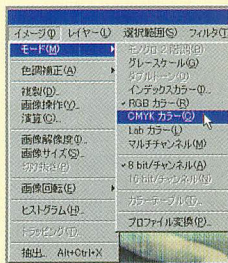
早めに保存しておきましょう。もともとのCDジャケットのデータに手を加えているので、必ず！「別名で保存」で保存してください。「保存」の方を使うと、CDジャケットの完成データがバックインレイのデータに置き換えられるので、気を付けてください。

1 ［ファイル］メニュー→［別名で保存］（Shift＋Ctrlキー＋S）を選択します。

2 保存先を指定するダイアログボックスが出てくるので、保存する場所を指定して、「CD-jacket-裏面.psd」というファイル名にして［保存］ボタンをクリックします。

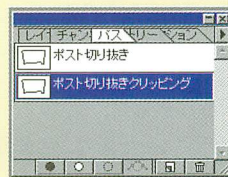
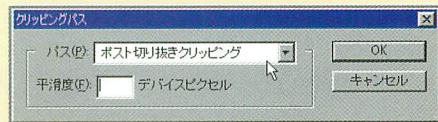
ちょっとコラム　商業印刷のためのデータ作り

ここでは、Photoshopで作成した画像をレイアウトソフトに取り込んで、印刷所にデータ入稿するためのデータ作りを説明します。商業印刷では4色分解、EPS形式が画像データの基本となります。もし、人物やモノなどを切り抜いて使用する場合は、これに加えてクリッピングパスの設定が必要となります。

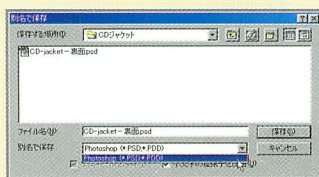
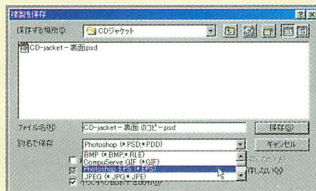
●CMYKに変換する

画像がRGBカラーの場合は、4色分解を行うために、[CMYKカラー] モードに変換します。

1 [イメージ] メニュー→ [モード] → [CMYKカラー] を選びます。

●切り抜き写真を配置する場合

「クリッピングパス」という機能を使うと、切り抜き写真をレイアウトソフトへ配置することができます。

1 パスを作成するとパスパレットに表示されます。パレットメニューの [パスを保存] で適当な名称を付け、パレットメニューの [クリッピングパス] を選びます。

2 [クリッピングパス] ダイアログボックスが現れます。[パス] の▼をクリックして、切り抜き用のパスを指定し、[OK] ボタンをクリックします。

●ファイル形式をEPSにする

PageMakerなどプロ向けレイアウトソフトを使って入稿用のデータを作成する場合は、画像をEPS形式に保存してからレイアウトソフトに取り込んでください。

1 [ファイル] メニュー→ [別名で保存] では、レイヤーがあるとEPSに変更できません。

2 [ファイル] メニュー→ [複製を保存] では、他のファイル形式に対応したデータに変換してくれます。[Photoshop EPS] を選ぶと、[画像を統合] に自動的にチェックが入り、すべてのレイヤーを統合して、つまりレイヤーのないデータに変換します。

3 [Photoshop EPS] を選んで [保存] を行うと、[EPS オプション] というダイアログボックスが現れます。通常は、[プレビュー] は [TIFF (8bit)] を、[エンコーディング] は [バイナリ] を、チェックボックスのチェックはすべて外しておきます。

文字を編集する

このステップの流れ

バックインレイ（「CD-jacket-裏面.psd」ファイル）にアーティスト名や曲名を入れてゆきましょう。

ここでは以下のことを練習します。

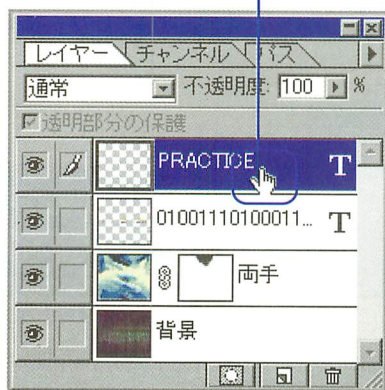
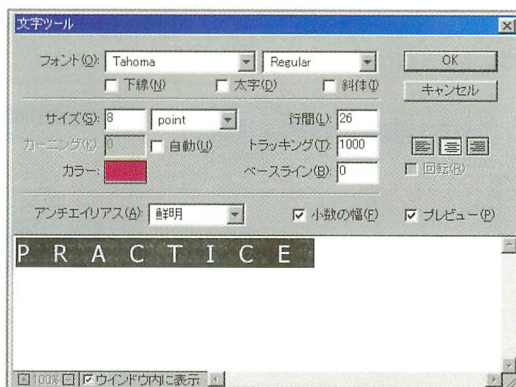
（1）アーティスト名を入れる

CDタイトルの下の行に、アーティストの名前を入れます。

（2）曲名を入力する

行間のバランスを考えて、10曲分の曲名を入力します。

アーティスト名を入れる

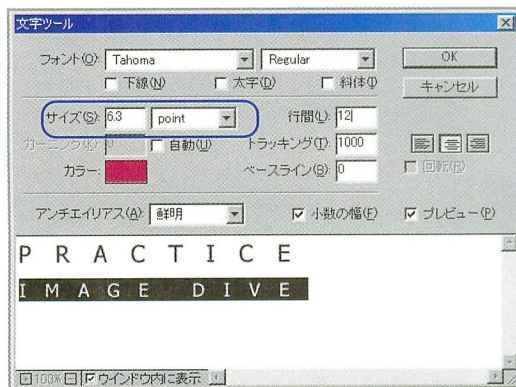
表面の作成時に入力したCDタイトルの文字レイヤーを利用して、2行目にアーティスト名を追加入力します。

1 [レイヤー] パレットの [PRACTICE] レイヤーをダブルクリックします。

2 [文字ツール] ダイアログボックスが出てきます。「PRACTICE」の文字の設定はそのまま利用して、その下に文字を追加していきましょう。

☞ヒント!!

2行目を入力するには

1行目の最後でクリックしてから、キーボードのEnterキーを押してください。改行されて、キャレットが2行目の先頭に移ります。そこから文字を入力してください。

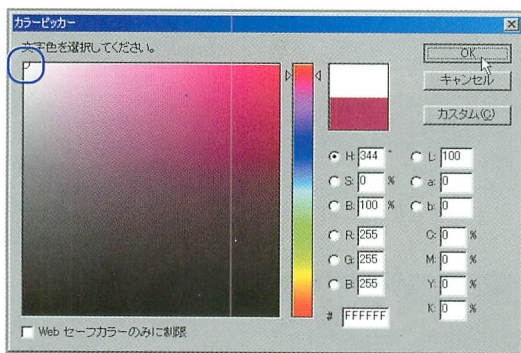
3 「PRACTICE」の次の行に「IMAGE DIVE」と入力します。

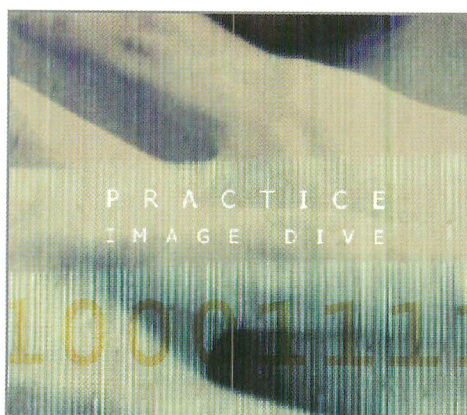
4 2行目の「IMAGE DAVE」をドラッグして選択します。

5 1行目と幅を合わせるために、サイズを小さくしましょう。[文字ツール] ダイアログボックスの [サイズ] に [6.3] ポイントと入力します。

6 文字の色を変えましょう。[カラー] をクリックしてください。

☞ヒント!!

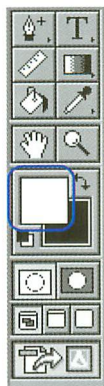
文字の色

文字の色は行ごとには変えられないので、どの行が選ばれていても、すべての文字が［カラー］で指定した色になります。

7 ［カラーピッカー］ダイアログボックスが現れます。ピッカーの左上の真っ白い部分をクリックします。数値入力で設定するなら、RGBともに255、あるいはCMYKをすべて0にしてください。

8 これで2行目の文字の設定は終わりです。［OK］ボタンをクリックしてください。

9 「PRACTICE」の下の行に「IMAGE DIVE」が追加されました。

10 文字をドラッグして位置を調整しましょう。ツールボックスから［移動］ツールを選択して、手の写真の上（背景が濃い色の部分）へ持っていってください。

曲名を入れる

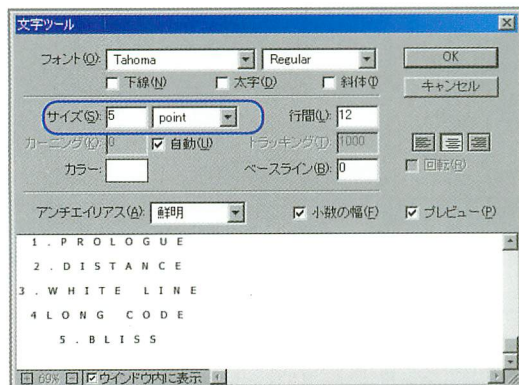
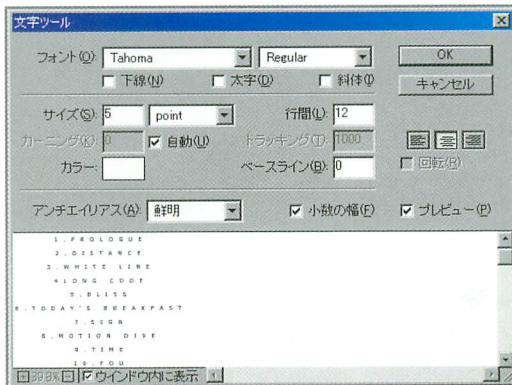
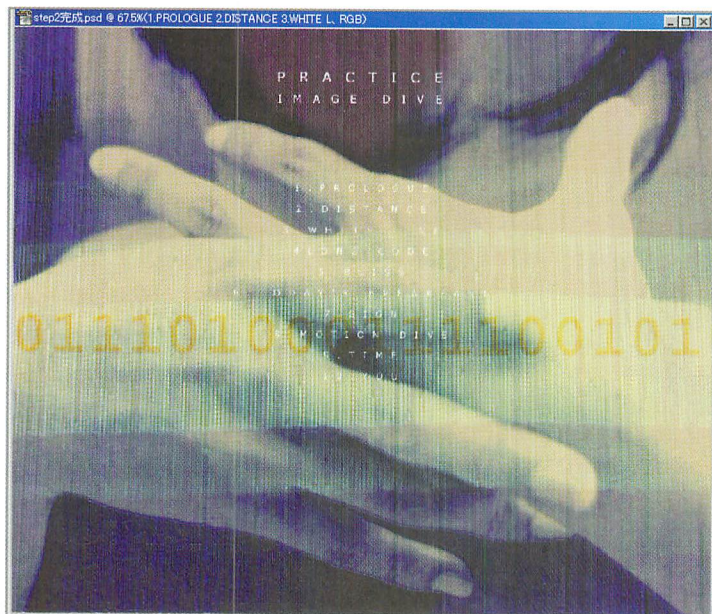
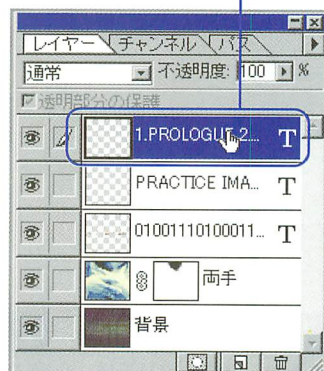
曲名を入力します。ここではいったん入力した後で、全体のバランスを見ながら行間を変更します。

1 次に、曲名を入力します。ツールボックスから［文字］ツールを選択します。

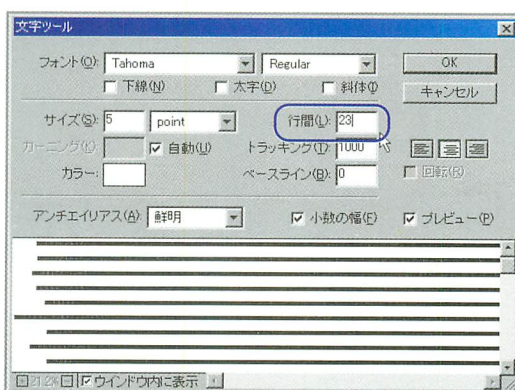
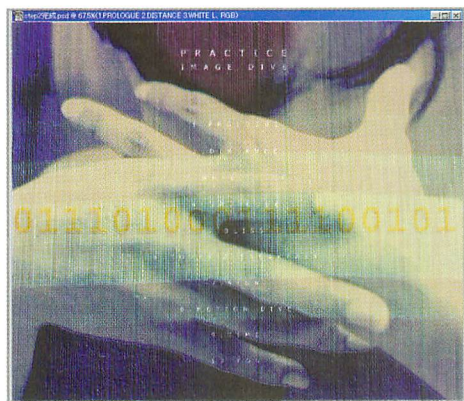
2 ツールボックスで［描画色］をクリックして、入力する文字の色を白にします。

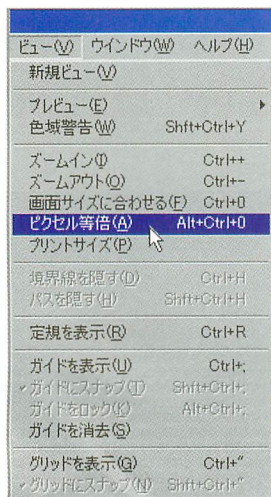
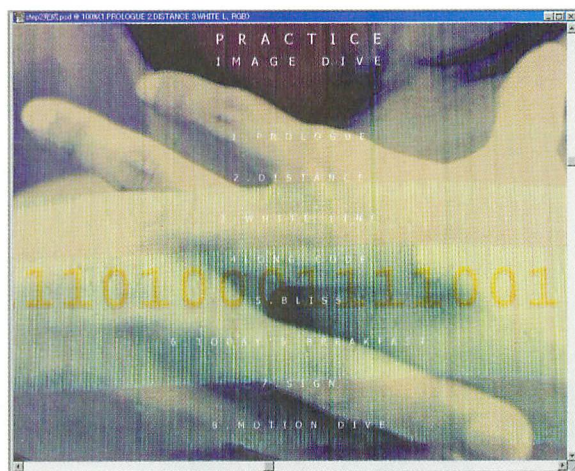
3 画面の上から1/3位、左右の真ん中あたりでクリックします。ここから曲名を書きます。

☞ヒント!!

どうして枠内の文字がどんどん小さくなるの？

［文字ツール］ダイアログボックスで左下の［ウインドウ内に表示］にチェックをしているので、入力した文字が増えると、自動的に文字を縮小して枠内に収めようとします。［ウインドウ内に表示］のチェックを外すと、実際の大きさで表示されます。

4 ［文字ツール］ダイアログボックスで［サイズ］は［5］ポイントに設定します。文字入力欄に曲名を書いていきます。行の変わり目ではEnterキーを押して改行しながら入力してください。

5 10曲分の曲名を入力しました。曲名は適当でかまいませんが、ここでは次のような曲名にしてみました。1.PROLOGUE、2.DISTANCE、3.WHITE LINE、4.LONG CODE、5.BLISS、6.TODAY'S BREAKFAST、7.SIGN、8.MOTION DIVE、9.TIME、10.YOU。

6 10曲分の曲名が入力された後の画像です。曲名の下が空いているので、もう少し行間を広げてみましょう。

7 [レイヤー] パレットには、さきほど入力したした曲名の文字レイヤーができています。このレイヤーをダブルクリックします。

8 [文字ツール] ダイアログボックスで、テキストをすべてドラッグして選択します。

9 [行間] を [23] に変更します。

10 行間が開いて読みやすくなり、すっきりとしたデザインになりました。

11 必要に応じて、[移動] ツールで文字の位置を調整してください。

12 画面表示方法を変えて確認しましょう。[ビュー] メニュー→ [ピクセル等倍] (Alt＋Ctrl キー＋0) を選択します。

13 確認したら、文字の編集は完了です。今日は、あともう少し。頑張って続けましょう！

バックインレイを仕上げる

このステップの流れ

バックインレイ（CDジャケットの裏面）を仕上げていきます。ここでは以下のことを練習します。

（1）背景の色を変更する

背景レイヤーの色を赤系から青緑系に変えてみます。

（2）レイヤーマスクを削除する

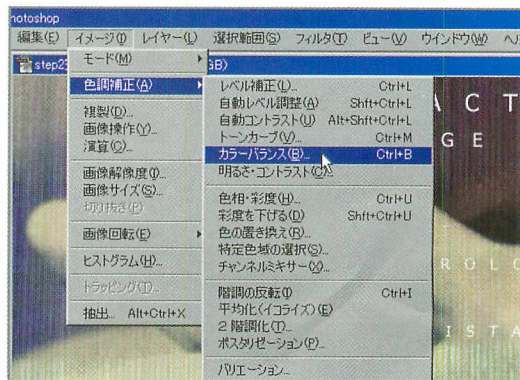
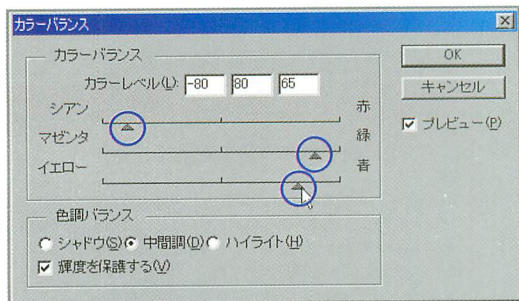
［両手］レイヤーに作成したレイヤーマスクは、ここでは使いませんので、削除しておきます。

（3）背の部分を作る

CDケースの背になる部分にも文字を入れましょう。用紙のサイズを変更して、背の部分に文字を入力します。

背景の色を変更する

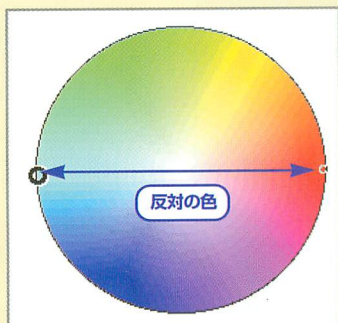
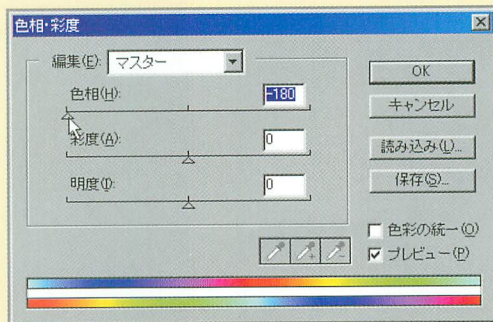
「カラーバランス」を使って、背景の色を変更してみましょう。表面が赤系なので、裏面は反対色に近い青緑系にしてみましょう。

1 ［レイヤー］パレットの［背景］レイヤーを選択します。

2 ［イメージ］メニュー→［色調補正］→［カラーバランス］（Ctrlキー＋B）を選択します。

3 ［カラーバランス］ダイアログボックスが出てきます。スライダをドラッグして、図のように設定します。

4 ［カラーバランス］の調整後は、赤紫色だったのが全体的にグリーンになります。ここらへんは、各自で自由に色を設定してかまいません。

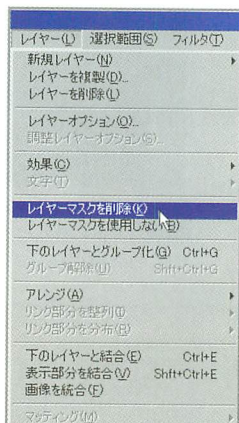
ちょっとコラム 色の仕組み

●色相環を見てみよう

色にはさまざまな表現方式がありますが、色相環を頭に入れておくと、補色やバランスのいい色を探すのに役立ちます。色相環は絵の具を基準に考えているので、RGBやCMYKとは少し考え方が異なります。

1 一定の彩度、明度で、円の反対側となる色が補色です。これは、同系色やバランスのいい色を探すときにも便利です。90度おきに対比的な4色を選ぶとか、10度単位で同系色を選ぶなど、角度を目安にするとわかりやすいでしょう。

2 また、［色相・彩度］コマンドのダイアログボックスで、［色相］を［－180］にすると、色相環の反対にあたる色に変えることができます。

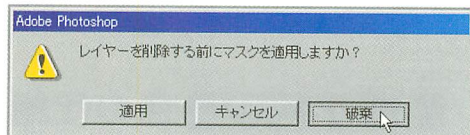
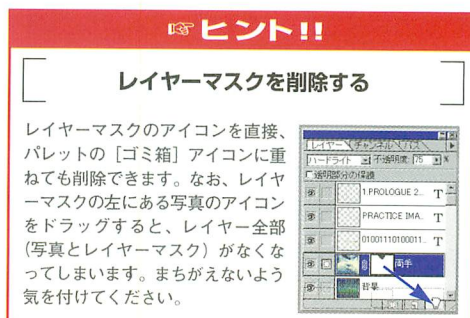
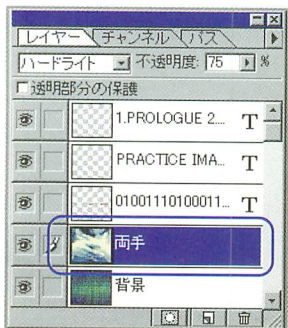
レイヤーマスクを捨てる

人物の写真はSTEP2で捨てていますので、[両手] レイヤーの [レイヤーマスク] は、もう必要ありません（人物の顔に影ができるからレイヤーマスクを作ったんですから）。捨ててしまいましょう。

1 [レイヤー] パレットの [両手] レイヤーで、右側のレイヤーマスクのアイコンをクリックします。

2 [レイヤー] メニュー→ [レイヤーマスクを削除] を選択します。

ヒント!!

レイヤーマスクを削除する

レイヤーマスクのアイコンを直接、パレットの [ゴミ箱] アイコンに重ねても削除できます。なお、レイヤーマスクの左にある写真のアイコンをドラッグすると、レイヤー全部（写真とレイヤーマスク）がなくなってしまいます。まちがえないよう気を付けてください。

3 「レイヤーを削除する前にマスクを適用しますか？」というアラートが出てきますが、ここではマスクを使わずに捨ててしまいたいので、[破棄] ボタンをクリックします。

4 [レイヤー] パレットで [両手] レイヤーがマスクなしの状態になったことを確認します。

5 [レイヤーマスク] が削除されたところです。手の色が少しきつすぎるので調整しましょう。

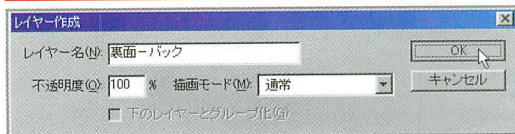
6 [両手] レイヤーが選択されたままで、[レイヤー] パレットの [不透明度] を [60] %に設定します。

7 ［両手］レイヤーが半透明になり、［背景］レイヤーの画像が見えてきました。

8 ［レイヤー］パレットで［背景］レイヤーをダブルクリックします。

☞ヒント!!

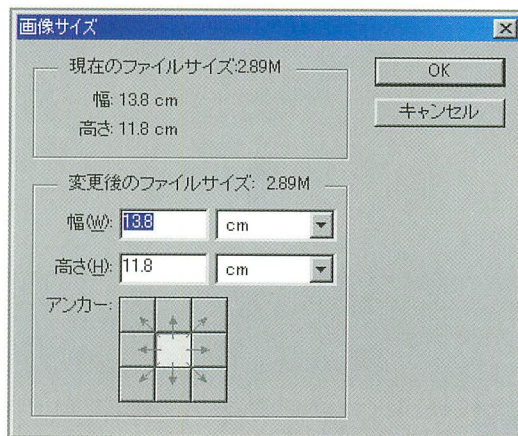
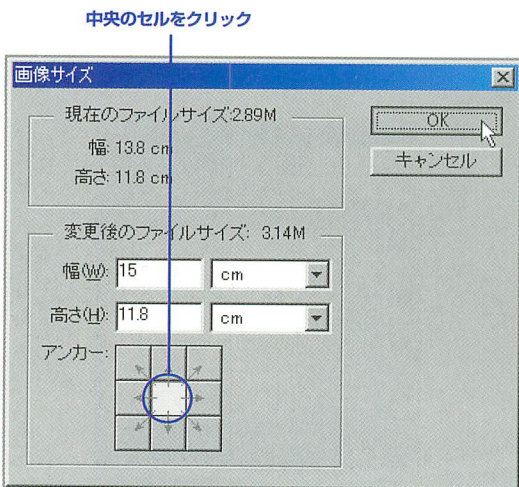
［レイヤーオプション］ダイアログボックスと［レイヤー作成］ダイアログボックス

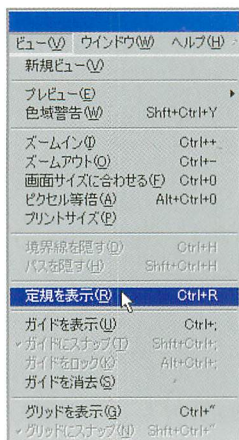
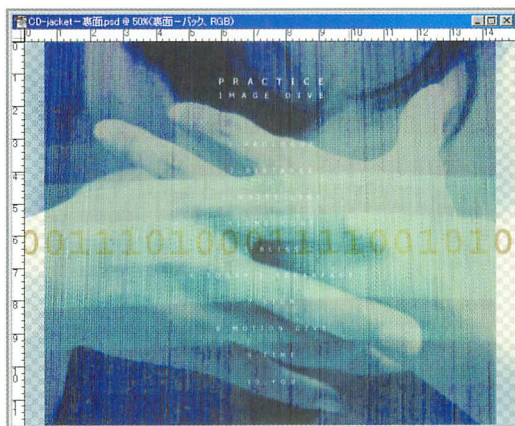
通常、［レイヤー］パレットのレイヤーをダブルクリックすると［レイヤーオプション］ダイアログボックスが出てきますが、［背景］は一般のレイヤーと異なり、［レイヤー作成］ダイアログボックスが現れます。ここで［OK］ボタンをクリックすると［背景］は、一般のレイヤーに変換され、選択範囲を削除して透明にするといったレイヤーと同様の処理ができるようになります。

9 ［レイヤー作成］ダイアログボックスで、［レイヤー名］を「裏面ーバック」と入力して、［OK］をクリックします。

10 ［レイヤー］パレットの［背景］レイヤーが［裏面ーバック］に変わったことを確認します。

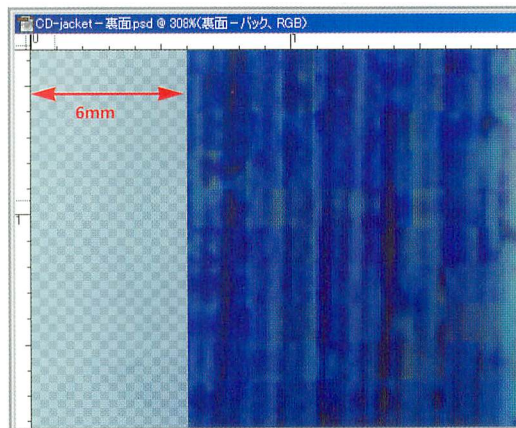
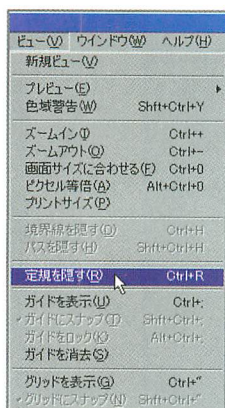
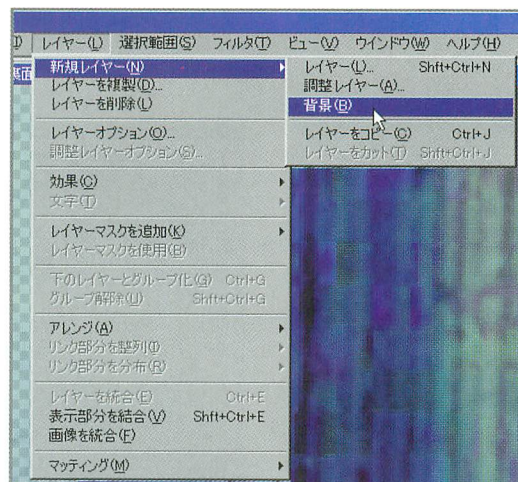
背の部分を付ける

最後に、背の部分を作りましょう。CDケースに合わせて、両側に作成します。サイズを広げるところから始めます。

1 [イメージ] メニュー→ [画像サイズ] を選択します。

2 [画像サイズ] ダイアログボックスが出てきます。現在のサイズが表示されています。

3 背の部分を左右に6mmずつプラスするため、[幅] を [15] (13.8cm+0.6cm+0.6cm) に設定して、[アンカー] は中央を選んでおいてください。[OK] ボタンをクリックします。

4 用紙の幅が広がりました。ちゃんと左右に、背中となる部分ができているか確認してみましょう。

5 [ビュー] メニュー→[定規を表示]（Ctrlキー＋R）を選択します。

6 ウインドウの上と左に定規が表示されます。

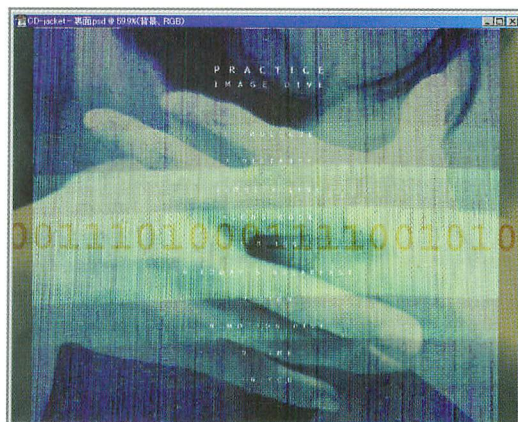
7 ツールボックスから[ズーム] ツールを選択します。

8 ズームツールで左上をドラッグし、拡大して見てみましょう。

9 定規で確認すると、左側が6mmあることがわかります。反対側にも6mmの空きができているはずです。

10 確認が終わったら、［ビュー］メニュー→［定規を隠す］を選択します。

11 ［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］→［背景］を選択します。

ここがポイント!!

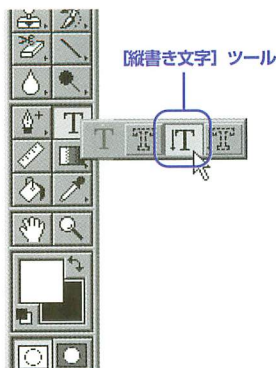
背景レイヤーを作成すると

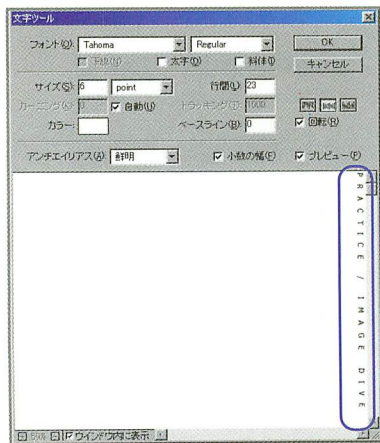
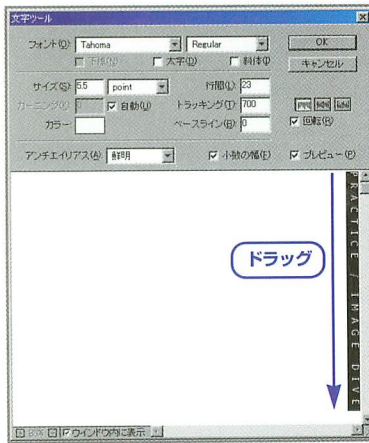
背景レイヤーは、常に他のレイヤーの一番背面（下）に作成されます。通常のレイヤーと違って、透明にすることはできません。

12 ［レイヤー］パレットの一番下に［背景］レイヤーができました。

13 もともと左右にはみだしている部分があった手の写真が現れ、反対に［裏面ーバック］には、左右に空きができました。

背の部分に文字を入れる

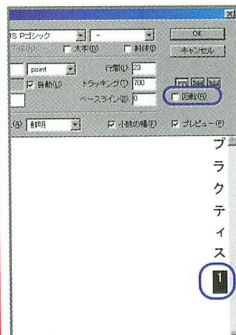
両わきの背の部分に、CDタイトルとアーティスト名を入れます。まずは、左の背から文字を入れましょう。

1 ［レイヤー］パレットで一番上の曲名のレイヤー（［1.PROLOGUE］レイヤー）をクリックして選択します。

2 ツールボックスから［縦書き文字］ツールを選択します。

3 左端の背の部分でクリックします。

4 ［文字ツール］ダイアログボックスが現れますので、文字入力欄に「PRACTICE…」と入力してください。

5 入力した文字をドラッグして選択し、［サイズ］を［5.5］ポイント、［トラッキング］を［700］に設定します。設定が済んだら［OK］ボタンをクリックします。

☞ヒント!!

和文縦書きの数字

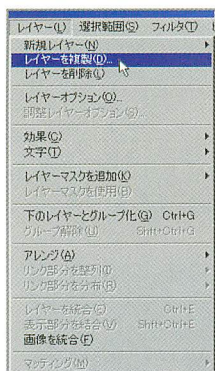
和文を縦書きにしたときに注意してほしいのが数字の扱いです。数字は横向きになってしまうので、［回転］のチェックを外して方向をそろえましょう。

6 画像の左端に、文字が縦に入りました。［レイヤー］パレットに［PRACTICE/IMAGE DIVE］レイヤーができているはずです。

7 文字の位置を調整しましょう。ツールボックスから［移動］ツールを選択します。

8 上下の空きが同じになるようにドラッグしてください。

9 ［レイヤー］パレットでは、今作られた［PRACTICE / IMAGE DIVE］レイヤーを選択しておきます。

反対側の背を作る

左の背として作成した文字レイヤーを複製して、反対側の背に持っていきます。

1 ［レイヤー］メニュー→［レイヤーを複製］を選択します。

2 ［レイヤーを複製］ダイアログボックスが出てきます。［新規名称］は［PRACTICE/IMAGE DIVEのコピー］のままでいいので、［OK］ボタンをクリックします。

3 ［レイヤー］パレットの一番上に［PRACTICE/IMAGE DIVEのコピー］レイヤーができています。

［移動］ツール

Shiftキー＋ドラッグ

4 左側の縦書き文字を右に移動させます。ツールボックスから［移動］ツールを選択し、Shiftキーを押しながら右の背にドラッグします。

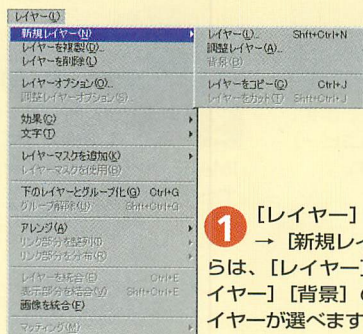
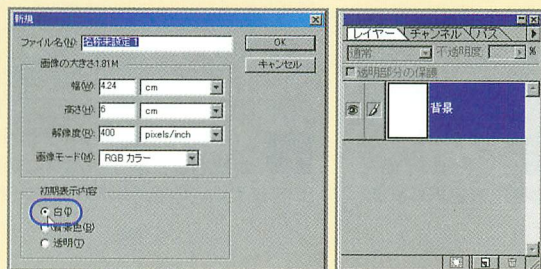
5 これで両方の背中に題名が入って、バックインレイが完成しました。［ファイル］メニュー→［保存］で上書き保存してください。お疲れさまでした。

ちょっとコラム レイヤーをもっと知る

●レイヤーの種類

［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］を見てもわかるように、レイヤーには［背景］、通常の［レイヤー］、［調整レイヤー］の3種類があります（図1）。［背景］レイヤーには透明という概念がありませんが、通常の［レイヤー］は背景を透明にできます。ここでは便宜上、通常の［レイヤー］を「透明レイヤー」と呼ぶことにしましょう。

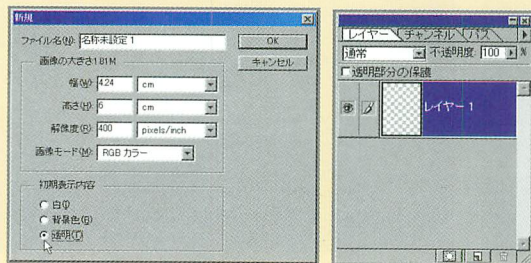
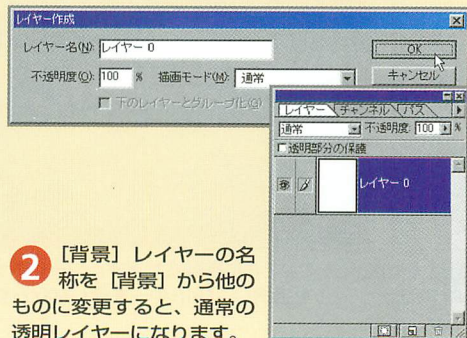
●どうして最初は［背景］レイヤーなのか

［ファイル］メニュー→［新規］の［初期表示内容］は、初期設定では［白］が選ばれています。白にした場合、［背景］レイヤーが自動的に作成されます。

❶［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］からは、［レイヤー］［調整レイヤー］［背景］の3つのレイヤーが選べます。

❷［ファイル］メニュー→［新規］のダイアログボックスで、［初期表示内容］を［白］にしておくと、自動的に［背景］レイヤーが作成されます。

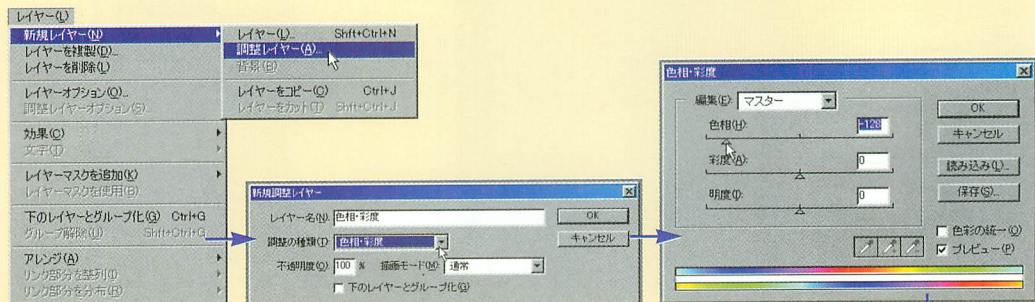
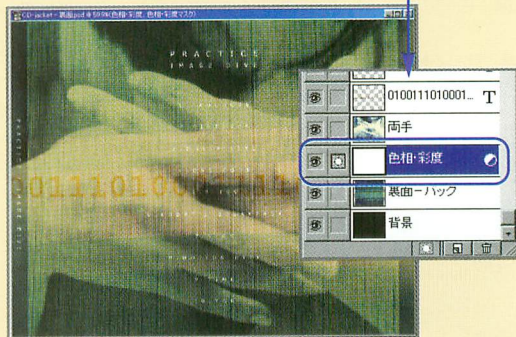
●［背景］レイヤーがいらないとき

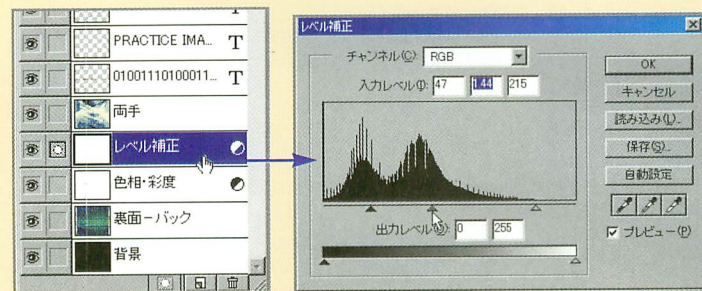
［新規］ダイアログボックスの［初期表示内容］を［透明］にすると、［背景］レイヤーは作成されません。

●［背景］レイヤーを透明レイヤーにする

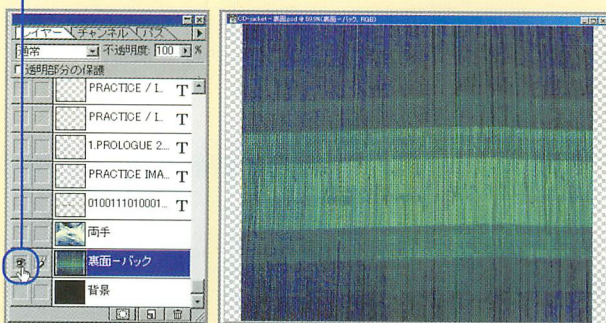
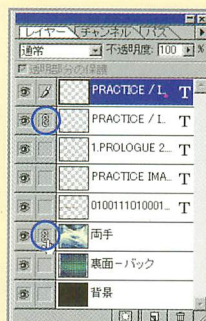
［背景］レイヤーの名前を変えると、透明レイヤーに変更できます。

❶［ファイル］メニュー→［新規］のダイアログボックスで、［初期表示内容］を［透明］にしておくと、［背景］レイヤーは作成されず、透明レイヤーが作成されます。

❷［背景］レイヤーの名称を［背景］から他のものに変更すると、通常の透明レイヤーになります。

●調整レイヤーを作る

「調整レイヤー」は、特定のレイヤーに対して［色調補正］コマンドを適用できる便利な機能です。レイヤーに対して直接色補正するわけではないので、元の画像を壊すことがありません。選択しているレイヤーのすぐ上に作成し、その下に重なっているレイヤーに対してだけ適用されます。［レイヤー］パレットの［新規レイヤー］アイコンをCtrlキー＋クリックしても、調整レイヤーを作成することができます。

1 ［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］→［調整レイヤー］を選ぶと、ダイアログボックスが現れます。［調整の種類］から目的の調整レイヤーを選びます。種類に合わせて設定ダイアログボックスが現れます。ここでは、［調整の種類］を［色相・彩度］にしたので、［色相・彩度］ダイアログボックスが現れました。色相などの設定を行って、［OK］ボタンをクリックします。レイヤーパレットで確認すると、最初に選択していた［裏面－バック］レイヤーのすぐ上に、［色相・彩度］というレイヤーが作成されています。

●調整レイヤーの変更

調整レイヤーは、［レベル補正］や［色相・彩度］など複数の調整レイヤーを作成することができ、そして作成後も設定を自由に変更できます。

1 ［レイヤー］パレットから、変更したい［調整レイヤー］をダブルクリックします。ここでは［レベル補正］レイヤーをダブルクリックしました。［レベル補正］ダイアログボックスが現れるので、変更をして［OK］ボタンをクリックします。

● [レイヤー] パレットの裏ワザ

[レイヤー] パレットの目のアイコンやグループアイコンの操作について、説明を加えておきます。

❶ [レイヤー] パレットの目のアイコンは、クリックしてレイヤーの表示／非表示を切り替えるものですが、反対に、特定のレイヤーだけを表示させ、他のすべてのレイヤーを非表示にするには、目的のレイヤーの目のアイコンをAltキー＋クリックします。

❷ 目の右の欄をクリックすると、選択していたアクティブレイヤーとグループ化され、位置を変更するときも一緒に動かすことができます。

● [レイヤー] パレットの超裏ワザショートカット

特定のレイヤーを選択範囲として選んだり、その選択範囲から他のレイヤー上の画像だけを取り除いて選択範囲を作り出す、といった超裏ワザも、覚えておくと便利です。

❶ [レイヤー] パレットの [裏面―バック] レイヤーをCtrlキー＋クリックすると、[裏面―バック] レイヤー上の画像を選択範囲にしてくれます。この場合、レイヤーを選択しておく必要はありません。

❷ さらに続けて、Ctrl＋Altキーを押しながら [010…] レイヤーをクリックすると、[裏面―バック] レイヤーの画像から [010…] レイヤー上の文字を取り除いた範囲を選択してくれます。Altキーの代わりにShiftキーを使えば、加算して選択範囲を作ります。